

ひやく しやく かん とう 百尺竿頭

札幌市青少年山の家便り

第 19 号

平成 24 年 2 月 1 日 発行

札幌市教育委員会 生涯学習推進課 野外教育主査

札幌市青少年山の家 野外教育専門員

増子 義仁

～長期自然体験学習実施に向けて②～

平成 23 年 2 月 1 日発行の第 7 号に記述させていただいた、長期自然体験学習実施に向けてのモデル事業として、昨年 8 月 6 日（土）～10 日（水）の 4 泊 5 日で小学校 4.5.6 年生を対象に「トライキャンプ」を実施しました。『発見！自然の不思議・自分の不思議』をメインテーマにテント泊・野外炊事体験・沢探検・小天狗岳登山などを通して、自ら進んで行動し、仲間と協力して支え合い、新たな自分を発見し自分に自信が持つことができるような子どもの育成を目指して取り組みました。



【小天狗岳山頂にて！】

今回、新しい取組としてキャンプ期間中に朝読書を取り入れてみた所、生活リズムが整い、落ち着いた雰囲気です。1 日をスタートすることができ、学校でも行われている朝読書が宿泊学習においても良い効果があることが検証できました。また、活動後に実施した簡易 I K R 評定（信州大学平野吉直教授による、体験活動における効果測定アンケート）では心理的社会的能力における現実肯定、非依存、視野・判断、徳育的能力における思いやりの心、身体的能力における日常的行動力、野外生活の技能において著しい有意性が見られ、長期自然体験学習が子どもたちの成長を促すことができることを明確にすることができました。

また、札幌市青少年山の家では今年度より、市内小学校 5 年生宿泊学習の長期化に向けての取組の 1 つとして、宿泊学習の前日に職員が学校へ出向き自然体験活動プログラムを直接指導することで、1 泊 3 日スタイルの宿泊学習とし、自然体験活動の効果の向上を図る【**拡大出前授業**】を実践協力校 3 校にご協力をいただき実施しました。実施した学校の先生方から、『出前授業でやった【自然の見方】の学習は大きな効果があった。また【発見することの楽しさ】に気付けた子が多かった。』『【自然の命のありがたみ】について学習したことで、炊事や日常でも残さず食べることを意識するようになった。』『子どもの宿泊学習に対するモチベーションがとても高まりました。』『環境教育プログラム体験（プロジェクト・ワイルド）は自然や命について考えるととてもよい機会となった。』など、大変ご好評をいただき、今後少しずつですがこの取組を広げていきたいと考えています。

次年度の協力校募集については、4 月に市内全小学校へ募集要項をお配りいたしますので、是非ご検討いただければ、と思います。



【拡大出前授業の様子】

このように、自然体験活動が子どもたちの健やかな成長にとって非常に価値の高いことは、皆様すでに十分ご理解いただいていることであると思います。札幌市青少年山の家では、今後も札幌市教育委員会所管の野外教育施設として、学校教育の一助となるようなプログラム開発やプログラム提供、情報提供を行ってまいりますので、是非ご活用いただき、充実した体験学習を推進していただければ幸いです。

1月事業のご報告

事業名：第4回合同下見会 実施日：2012年1月13日（金）

冬季の利用予定の市内小学校23校から50名の参加をいただき、今年度4回目の合同下見会を実施いたしました。中でも冬季のアクティビティとしてスノーシューや歩くスキーの体験では、装着方法のほかコース上での見所など自然の情報をお話しながら歩きました。中には初めて体験された方もいて、「これで子どもたちに楽しさを伝えられそう」との声をいただきました。



【1月の利用者アンケートより】

- 冬場のキャンプファイヤーは北国ならではのもので、大変貴重だと感じる。
- 積極性や行動など日常生活では見逃してしまいそうなことを発見できます。
- 食事内容が良く、栄養バランスも良い。
- ▲建物の作りが複雑で、迷子になってしまったので、全体図を廊下に貼り出してほしい。
→初めてご利用いただくお客様のためにも、館内図の掲示を増やすなど対応をいたします。
- ▲食堂利用について食事直前の説明ではなく、打合わせ時か書面でお願いできたらと思います。
→事前段階で説明ができる内容に関しましては、わかりやすく書面にてご案内できるよう検討いたします。なお、当日の食器返却ルートについては、同日の団体規模により決定するため、当日のご案内になってしまうことをご理解願います。

【動物豆知識：野鳥の見分け方】

先日、日本野鳥の会札幌副支部長 猿子正彦先生の講義を受ける機会に恵まれました。その中で野鳥を観察する際の野鳥の見分け方を教えていただきました。

大きく分けて①野鳥の大きさ ②鳴き声 ③部分的特徴（色や模様など）の3つがあるようなのですが、その中でも、大きさを基準にする場合には、**【ものさし鳥】** を使って見分けるのだそうです。

遠くにいる野鳥を「何センチくらい」と判断するのは大変難しいことですので、小さい鳥はスズメ・中くらいの鳥はヒヨドリ・やや大きい鳥はキジバト・大きい鳥はカラスを基準とし、見分けていきます。山の家周辺では、冬もたくさんの野鳥を観察できますので是非来館して、野鳥観察にチャレンジしてみてください



【ツグミ】



【ウソ】

発行者：札幌市青少年山の家指定管理者 財)札幌市青少年女性活動協会

住所 〒005-0862 札幌市南区滝野247番地

電話 011-591-0303 FAX 011-591-0394

URL <http://www.sapporo-yamanoie.jp>